

ハマデラ草の歌

作詞：高野洋佑 作曲：池島栄治郎 編曲：大野正登

一 ハマデラ草が咲く季節には
やわらかなやさしい 風が吹いている
道端に咲いた 可憐な花が
夕暮れに染まって 命を宿す
心にひとつ またひとつ
あの日の思い出が 蘇るように
ハマデラ草は 息をのむほど
とても清らか とてもたわやか

たわやか : やわらかで優美

二 ハマデラ草は 遠い国から
海をわたって 日本についた
異国をさまよう 小さな花は
ふるさとを夢見て 異国に漕げた
涙がひとつ またひとつ
ハラリと音もなく 足元におちた
ハマデラ草が ここに生きている
守られて咲いてる 浜寺の街に

三 ハマデラ草が 風に吹かれて
揺れながら言うのか 生きてごらんと
儂さも過去も 季節の中で
過ぎ去って行くのか 温もりおいて
切なさひとつ またひとつ
暮れゆく夕焼けに 溢れ出る想い
ハマデラ草よ 今度逢う時
希望を抱いた 夢を話そう

北アメリカ南部を原産地とする。

日本(大阪府、兵庫県)に外来種として移入分布する。1932年頃に大阪府堺市の浜寺海岸で植物学者 牧野富太郎博士に初めて発見され、和名も発見地に由来する。1958年頃には海岸が埋め立てられるなどで環境が変化し、野生のハマデラソウは当地から姿を消した。後に堺市に隣接する高石市と泉大津市の海岸付近で発見された。地元浜寺の名が付いている植物なので、堺市の植物同好会が、1986年に「ハマデラソウを守る会」を設立し、浜寺地区の児童生徒とともに保護・育成活動を行っている。

